

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300214		
法人名	医療法人 むつき会		
事業所名	Cere hill's だん槃		
所在地	福島県 郡山市富久山町久保田字上野147－1		
自己評価作成日	平成23年12月28日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人むつき会と医療と介護の連携を重視し、ご利用となる方の、日々の健康状態の把握と変化に柔軟に対応している。また、地域の人との関わりで消防団の協力や地区行政との連携もスムーズにとっていることで、開設して1周年を迎え地域との結びつきができていて、安心して、「心の通い合う」暮らしを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 多角的な介護サービス事業等を展開している法人であることから、相互の連携を活かして質の高いケアに努め、利用者及びその家族の安心に繋がっている。
2. 事業所は小規模多機能型居宅施設を併設しており、運営推進会議は合同で開催されている。委員は各分野から幅広く選任され、委員の協力のもと地域密着型事業所として事業推進に努めている。
3. 職員の研修や資格取得には法人としての支援もあり、資格取得後は待遇にも反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の生き方や尊重、尊厳をもって、地域の一員であるということは共有している。	事業所運営の基本である理念は、地域と家庭に目を向け共に歩む内容になっており、毎日の職員ミーティング時に唱和し、全職員が共通の認識を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災面で地元の消防団と協力が得られている。また、夏祭りで地域の人との交流ができた。なお、開設1周年を記念して婦人会や地域のサークルとつながりができた。	夏祭りを契機として地域の婦人会等との交流ができ、さらにスポーツ民謡や学生ボランティア等との受け入れ等も盛んになってきた。また、事業所職員が地域行事である認知症講座の講師として参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふくふく夢市場の商工会で認知症講座やその寸劇を開催できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	防災対策や今後の行事等について、意見交換しあっている。	運営推進会議は定期的に行われており、委員には行政等、各分野から広く選任されている。毎回様々な意見や提言が出され、事業所の運営やサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富久山行政センター（保健師）や地区の民生委員とも協力し合い認知症講座でイラスト、ポスターなど行政センターと連携ができた。	開設時より行政センターや地域包括センターとは事業所の事業内容や利用者の相談等を通して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に施錠はせず、玄関は日中解放している。身体行動を抑制するようなことはなく、自由に動けるようにしている。	全職員がマニュアルを通して身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアに努めている。玄関は日常は施錠せずセンサーや見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個人の尊厳や安心、安全に務め尊重してたいおうしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部のスタッフは理解しているが、活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、申し込み後の締結時に十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、運営方針や行事の説明を行い、協力を行っている。	家族会が設置され年2回開催している。家族の意見等の把握には家族会や面会時等機会あるごとに耳を傾け収集に努めている。出された意見や要望は職員会議で検討し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の全体会議で、スタッフの意見を拝聴し、反映の機会を設けている。	毎日行われる職員ミーティング、月例で行われる職員会議等で職員の意見を聞く体制となっている。意見、要望は管理者と協議のうえ日々の実践に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理念に沿って、各スタッフが目的、目標をもって取り組み過重負担にならないように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型の勉強会やグループホーム研修会等に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県中地区の研修の機会を有効的に活用している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや家族の思いを面談や訪問を通じて尊厳や安心感をもって個人の生き方に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の意向をくみ取り日常的に、困難なところや、できるところを把握し意見や要望を対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が何をしたいか考え、できることと、できないことをも極め、今できるところを実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の中でご本人の状況や状態に応じて作業や調理手伝い等々を通じ暮らしを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活で変化があると、気持ちも変わるので協力してご本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の今までの付き合いの友達とお茶を飲む時間をつくって外出したりしている。	利用者の友人等の茶話会への参加には会場までの送迎など利用者の馴染みの人との交流を支援している。併設の小規模の利用者がグループホームの友人を訪れるなど常に交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒に歌を唄ったりレクリエーション等で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、継続的なフォローが必要なケースは発生していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように思っているのか、スタッフ全員で気配りして日常対応している。	日常の触れあいの中から利用者の言葉やしぐさから意向や希望等を把握するように全職員が意識している。利用者の意向等は職員が記録し全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員で把握しサービスにあたっている。(利用者との関係を保つために)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	異常なケースが発生したり、変化について申し送りや、ノートに記載し全体で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族が今後どのようにあるべきか、スタッフ全員で話し合い介護計画をつくっている。	介護計画は利用者の現状把握や家族との連携などの確に把握し作成している。開所して一年を迎え、計画書の様式や記載方法など更に効果的なものを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況やチェックシートや日誌等に記入し申し送り時に記入し、申し送りで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて宿泊の期間等への切り替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所のイベント時に公民館から機材貸出や広報誌を置いて協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と医療機関の受診について、十分に協議している。基本的に医療機関の受診は家族にお願いしていますが、状況に応じて職員が同行している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診の支援をしており、往診もある。利用者の多くは協力医療機関を受診している。受診には家族同行を基本としているが利用者の状態によっては職員（看護師）が対応している。歯科医の口腔衛生指導も導入している。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を中心に日々利用者様の健康状態の把握を行っている。随時アドバイスが得られるように体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も訪問や医療機関へ情報提供を行っている。状況を把握し家族やかかりつけ医と調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態変化時に関係者間で協議している。	「重度化した場合における対応にかかる指針」が策定され入所時に家族と同意書を取り交わしている。重度化した場合の対応については家族と十分話し合い、医師や看護師、職員が情報を共有して取り組む体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様に関しては、事前に急変時の対応を家族と協議しており、対応の明確化を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づき、年2回総合消防訓練を行っている。	消防署と連携した年2回の訓練が実施されている。その訓練には地元消防団の参加もあり地域に根差した訓練になっている。日常の食料は1週間程度の用意はしているが、非常時の食料・物資等の備蓄を検討している。	あらゆる場面を想定した職員の共通認識が必要であり、機会あるごとに訓練を重ね緊急時に対応できるように期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門職として基本的な資質を身につけている。	思いやりや尊敬の念を持ち日常のケアに努めている。トイレや入浴時のリードする言葉かけにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のできること、したいこと好きなことを職員が理解することで意思の表出しやすい環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人が主体性を持った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては、本人のこだわりに合わせて職員が準備させて頂いている。本人の心の彩にもあるのもう少し工夫が家族や本人と工夫が必要なこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者が食事を摂られている間はスタッフはサポートしている。楽しい時間の共有と言う形で考えるともう少し考慮することも考えられる。	職員が隣に座って介助し、お話ししながら食事を摂っている。開所時は職員も共に食事をしてはいたが、利用者の状態により現在は共に食事はしていない。職員も一緒に食事を楽しむ方策を検討中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活全体の背景環境を考えると栄養状態、水分摂取量に気を配り健康管理面に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個々の利用者に応じてケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個人個人のに合わせてた排泄の支援を行っている。	利用者個々の排泄チェック表等の利用やこまめな声掛けでトイレでの排泄を基本として支援している。夜間にオムツを使用している利用者也日中はリハビリパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸閉塞の予防や情緒的な安定のためにも食事や水分、服薬、運動のバランスを考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じや身体状況に応じて関わりを大事にしており、出来る限り気持ちに沿った入浴にとりくんでいる。	菖蒲湯・リンゴ湯等の季節の風呂等を楽しむ個別浴槽のほかに、小規模と共有利用のリフト浴槽もあり設備は充実している。毎日利用可能であるが入浴が嫌いな利用者にも週2回以上を目標にしてリードしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体調等を考慮し、一人一人の状況を考え休息をとって頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状態に応じて、看護師を中心に医療機関とは随時連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人と人との繋がりを大事にできるように配慮している。得意なことは協力を頂けるように願っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じて心身の活性化を図れるように、屋外への外出行事を行っている。	2か月に一度の外出ツアー・おやつを楽しむ会・買い物ツアー等を実施し外出の機会を作っている。天候のよい日は事業所周りの散歩・ベランダでの茶話会・園芸作業の支援などを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食時に自分でお金を払って頂くなど社会性を持続させるとりくみは意識して行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がどのように思っているのか、スタッフ全員で気配りして日常対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り付けは利用者と一緒に取り組んだものを掲示している。	共有部分は広く陽射しも入り明るい。畳敷きの部分に炬燵も置かれ、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。手作り作品の展示などもあり和やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に一人一人の居場所づくりには課題が残る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	プライバシーや快適さには配慮しているが、自宅とのギャップを感じさせない工夫は今のところ検討をいたしますが、馴染みの環境についての努力はしている。	段差のないフロアにベット利用を基本としているが畳利用にも応じている。利用者の状況によりベットは電動リクライニングも利用可能である。家具等の持ち込みは自由であり住み慣れた自宅の環境を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じを考慮し、状況に合わせて環境整備をしている。その環境で自立支援に近づけるように努力している。		